

韓国で口蹄疫が継続的に発生！

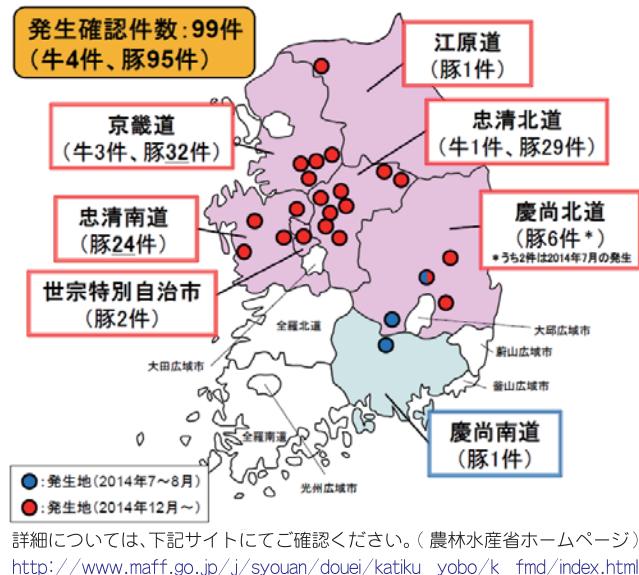
韓国では昨年7月に3年3ヶ月ぶりに口蹄疫の発生が確認されて以降、発生が拡大しています。過去の日本での口蹄疫の発生をみると、まず韓国で発生しています！さらに、他の東アジア諸国でも発生が続いていることから、日本へ侵入する可能性は非常に高い状況が続いています。

また、観光庁によると、平成25年は訪日外国人旅行者数が1千万人を突破するなど、外国人の日本への訪問も増加傾向にあります。

本会では、消費者が牧場の衛生管理区域に無断で立ち入らないようにするため、独自の注意喚起ツールを制作しています。なお、近年、外国人来場者の増加も一部牧場でみられることから、英語表記のデータも作成しています。データは本会のHPよりダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

宮崎の悲劇を忘れずに、飼養衛生管理基準を遵守して交流活動を行うように気をつけましょう！

韓国における口蹄疫の発生状況（2014年7月23日～、O型）（2015年2月16日現在）



発生予防の徹底をお願いします！

- 農場の出入口に看板を設置するなどにより、農場内へ不要・不急な者を立ち入らせることのないよう、関係者以外の立入を制限しましょう。
- 農場に持ち込む物品や出入りする車両の消毒を徹底しましょう。
- 農場の出入口に踏込消毒槽等を設置することにより、出入りする人の靴底の消毒を徹底しましょう。
- 従業員の方も含め、口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控えるとともに、これらの国の農場からの郵便物等は衛生管理区域に持ち込まないようにしましょう。
- 農場を出入りした人・車両等に関する情報を台帳等に記録し、少なくとも1年間は保管しましょう。

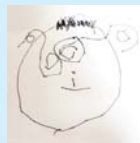


効果的な消毒を実施しましょう！

- POINT 1** 踏込消毒槽の消毒液は、汚れて効果が薄れてしまうことから、まずは汚れを落としてから消毒すること。また、消毒薬が汚れていることに気づいたら、直ちに交換すること。
- POINT 2** 農場に出入りする車両の消毒では、タイヤのみを消毒するのではなく、泥よけの内側部分や運転席の足元スペースも可能な限り消毒すること。
- 要注意!** 逆性石けんは口蹄疫の消毒薬としては不適です！消毒効果が弱まるので、酸性とアルカリ性の消毒薬を同時に使用しないこと！



事務局からのご挨拶 26年度から酪農教育ファームを担当しております、草間と申します。酪農教育ファームは19年度から2年間担当しておりましたが、異動により6年ぶりに舞戻って来ました。地域交流牧場全国連絡会と酪農教育ファームは密接に関連しており、内部で力を合わせて頑張りますので、よろしく願い申し上げます。



地域交流牧場全国連絡会
平成27年3月発行
DAIRY FARM NEWS

3
月号
2015

DAIRY FARM NEWS 2015年3月号



平成26年度 クラブ・ユース事業を実施

韓国で口蹄疫が継続的に発生 事務局・中酪からのお知らせ

クラブ・ユース事業の未来

交牧連ユース代表の石田陽一です。私は就農した2008年から交牧連の活動に参加しておりますが、先輩方は消費者や子ども達に対する意識が非常に高く、わくわくモーモースクールや全国研修会に参加するたびに刺激を受け、経営や教育ファーム活動に役立っています。これから10年、20年後の日本酪農を想像すると、こうした地域社会や消費者との深い交流はますます求められ、交牧連の役割はより高まっていくでしょう。そうした中での今回のユース設立は、先輩方の思いを正しく受け継ぎ、若いエネルギーを加えて次の世代に伝え、より良い日本酪農の未来を創っていくという意義があります。12月の第一回交流会は交牧連の若手メンバーと大学生で約50人も集まり、皆様の関心の高さや無限の可能性を感じました。課題も多く見つけましたが、そこは若いアイデアや議論を通して乗り越えられると確信しております。今後も高校生、大学生、異業種など様々な交流を深めて、素敵な組織に成長できるように、多くの若手交牧連メンバーの参加をお願い致します。

石田 陽一 (有) 石田牧場 (神奈川県)

発行日 / 2015年3月 発行 / 地域交流牧場全国連絡会 TEL:03-6688-9641 FAX:03-6681-5295 ホームページ: http://www.dairy-farm.jp/



若手酪農家の集い

平成26年度クラブ・ユース 事業を実施

平成26年12月9日(火)、東京大学農学部キャンパス(東京都文京区)において、『日本酪農と題した勉強会を開催しました。本勉強会は、日本酪農の発展に貢献する観点から、後継者世代・ユース事業』を本会として立ち上げるため、各ブロックから選出された代表者(後継者世代)実現したものです。参集範囲を「40歳以下または酪農従事年数5年以内」とした上で、本会会員大学生等にも幅広く参加を呼び掛けたところ、全国から50名以上の参加がありました。

開催にあたり、農業に興味のある大学生のサークル「日本の農業に一生を賭ける！学生委員会～SOLA～」より、会場の手配や勉強会での事例発表、当日運営等にご協力をいただきました。SOLAでは「見えるMilkプロジェクト」などの様々なプロジェクトが企画され、多数の団体と連携して農業に関する見識を深めています。

勉強会では、SOLAと本会会員牧場の後継者4名から事例発表を行い、その内容に関してグループで意見交換を行いました。限られた時間でしたが、活発な情報交換が出来たことと思います。また、全体でのディスカッション時には「今後のクラブ・ユース事業をどう進めていくか」という問題提起がなされ、石田陽一リーダーより「今年クラブ・ユースの存在を知ってもらうことが第一の目的。まずは集まる機会を作りたいということで本日の会を企画した。若い力で日本の酪農を良くし、またそれを交連連本体にも還元したい。これからの繋がる意見を期待している」と回答がありました。

勉強会の後は「大望年会」と題して場所を移して交流会(バーベキュー)を行い、全国各地からそれぞれ持ち寄った美味しい牛肉や野菜を堪能しました。真冬の寒空の下でしたが、自身の熱気で寒さを忘れて交流が出来たことと思います。

本会のクラブ・ユース事業は始まったばかりですが、27年度以降、より充実した内容になっていくことでしょう。本事業を通じて酪農業界を「元気」にするとともに、日本における酪農の価値がより一層高まっていくことが期待されます。



SOLA のみなさん



「大望年会」



西山農(みのり)さん(兵庫県・西山牧場)

大学時代に両親からアイスクリームを始めたいと言われ、反対したがどんどん話が進んでしまった。しかし、14年経った今では酪農部門を追い越すほどの勢いでアイス部門は伸びている。普通の酪農家だった西山牧場は、6次産業化により「スーパー農家」に変貌を遂げた。

ただ、「酪農を継続する」ということが本当の目的。健全な経営を行い、そして子どもに継がせたい。今、酪農家は厳しい状況に置かれて余力がないが、「余力がある＝魅力を感じる」だと思っているので、余力を作ることが大事。魅力があれば後継希望者が増えるはず。

廣野豊さん(香川県・広野牧場)



「農業のイメージを良くする」「田舎に人が来る仕組みを創る」「田舎に雇用を創る」「就農者を支援する」「子どもたちが農業に触れる機会を創る」などをテーマに活動を実施。酪農教育ファーム、6次産業化、農業体験などに力を入れながら、「アミューズメントFARM」構想も計画中。

一方で、経営の「見える化」を進めており、乳量や繁殖成績のデータはもとより、業績などを他の企業やメガファームと比較分析することで改善に繋げている。

勉強会の企画者

クラブ・ユース ブロック代表者			※順不同
ブロック	氏名	牧場名	都道府県
北海道	小熊 章子	美瑛ファーム 美瑛放牧酪農場	北海道
東北	安原 大陸	ABITANIA ジャージーファーム	青森県
関東	石田 陽一	有限会社 石田牧場 ※クラブ・ユースリーダー	神奈川県
北陸	西出 穰	西出牧場	石川県
東海	加藤 悠太	加藤牧場	愛知県
近畿・中国・四国	西山 農	西山牧場	兵庫県
九州	里村 貴司	さとむら牧場	長崎県

交流部会長：花房 享一郎(地域交流牧場全国連絡会 理事)

の未来』について語り合う若手の集いの育成を図ることを目的とした「クラブ・ユース」による2回の検討会議の結果を踏まえ、他、会員以外の酪農家、酪農関係者、



田畑修一さん(大分県・たばた牧場)

大学時代に学生が農業について知識がなさすぎることに驚き、自ら農業に関するサークルを設立。現在まで同サークルは続いており、その活動の一環として毎年大学生の研修を受け入れている。近隣の施設に寝泊まりしながら10日間程度、酪農家の仕事を体験してもらう。酪農教育ファーム活動を通じて、自分たちが食べているものがどうできているのかをきちんと伝えたい。

「教育」は酪農家としてできることの一つであると考えており、「教育を売る」という6次産業化もあるのではないかと。ボランティアではなく、「塾」と同じ考え方で対価を受け取るべきと考える。

石田陽一さん(神奈川県・石田牧場)



近隣の消費者を牧場に受け入れた際、大人も子どもも牛について何も知らないことや、何十年も昔からある石田牧場の存在が全然知られていなかったことにショックを受けた。ただ、消費者が悪いのではなく、生産者がこれまで説明してこなかったのだと感じた。それ以降、一人でも多くの人と交流しようと考えている。

子どもたちの口に入るものを作っていると考えれば、日々の作業で手は抜けない。衛生環境に対する意識は高まっている。TPPやコスト高は自分ではどうにもならないが、意識と行動は自ら変えられる。今では都市型酪農という「地の利」を活かして、地元農家と連携したジェラートショップを開設し、牧場体験も年間千人程度受け入れている。

事務局からのお知らせ



会費・保険料の納入について

～皆さまの会費が運営を支えます～

年会費は、活動費用や施設賠償責任保険料として活用しています。円滑な事業運営を実現するため、定められた期日までに年会費・保険料等の支払いをお願いいたします。

活動ツールの有償提供について

～早いもの勝ちです！～

本会オリジナルツールのTシャツ、のぼり、牛風船、牛柄鉛筆、消しゴム等について、少しでも在庫があります。ご興味がある方は事務局までお問い合わせください。注文書をお送りいたします。



のぼり



Tシャツ(後ろ)



風船



中酪からのお知らせ

「日本チーズ生産者の会」参加者募集中!

国産ナチュラルチーズ生産者の有志により、全国的ネットワークとして、「日本チーズ生産者の会」が設立されました。現在、会員を募集していますので、ご興味のある方は中酪のHP(<http://www.dairy.co.jp/>)をご覧ください。

「MILK JAPAN」PC サイト、日々更新中!

「MILK JAPAN」HPは月曜から金曜まで、(ほぼ)毎日更新しています。子牛のおはなちゃんもずいぶん大きくなりました。そのほか、定番の「こたえてミルクゴッド」や「今日のミルクコップ」、少しふざけた「ミルクラボ」等々、様々なコンテンツでお送りしております!

4月にはリニューアルも予定?!ぜひ、サイトを覗いてみてください。<http://www.milkjapan.net/pc/>

